【1面から】の原爆に繋がった。国が戦争を始め、止められなかった。国への（過度な）信頼は独裁政治を産む。よりよい政治をつくるには、政府を疑うことが重要だ」と訴えました。

日本共産党岡田まなみ高松市議は、日本の被害だけでなくアジア太平洋地域での加害にふれ「過去の侵略戦争と植民地支配を二度と繰り返さない不戦の誓いを守ろう」と語り、香川憲法会議十河浩二事務局長は「戦後80年を迎え、政府は武力によらない平和を掲げた日本国憲法を守り、世界に発信すべきだ」と述べました。

そのほか、みどり・香川の太田安由美、立憲民主党の山西朋子各高松市議、社民党多田雄平さぬき市議、護憲香川の小野賢治事務局長が訴えました。

原爆展特別イベント　平和の集い　高松

7月24日～8月15日の期間に、高松市の瓦町フラッグで高松市と長崎市、高松市平和を願う市民団体協議会の共催した原爆展が開かれました。

8月2日には特別イベントの長崎と広島の被爆者による被爆体験が語られ、約50人が参加しました。

香川県木田郡三木町在住の長尾昭雄（てるお）さんと長崎平和推進協会継承部会員の堀田武弘さんが講演をしました。

長尾さんは、当時の原爆の強力な熱線や放射能、爆風の被害にふれ、「広島市内は一瞬で廃墟。火災で全部燃えた」と振り返りました。自身は瀕死の重傷を負い、その後原爆症となった体験を語りました。

世界の戦争状況や、日本政府のイージス艦購入などの軍備の拡大を指摘。「地元の小学生の集団登校を毎日見て、彼らが大人になるためは、平和でなければならない」と、次世代に平和を引き継ぎたい【3面に】

「日本被団協」がノーベル平和賞を受賞
香川の一会員として今思うこと⑩　藤井　明

全人類の安全を危険にさらす政策としての「抑止力」

被団協のノーベル平和賞受賞の際、参議院議員の小池晃さんは、「これは日本政府に対する強烈なメッセージだ」といいました。「核抑止力」を明確に否定する被団協のノーベル平和賞受賞がそういう意味を持っていたことは間違いないと思います。

被爆者とその家族は、「核兵器が抑止力になる」という考え方そのものにかなりの違和感を覚えます。それは何よりも、「いざとなれば使うという事が前提になっている」からです。そしてそのことは、とりもなおさず、広島・長崎の被爆者や被爆死した人たちの身に起こったことが再び繰り返されても構わないと考えている、と言うことだからです。核爆弾が炸裂した時、実際に広島や長崎にいた人はもちろんのこと、その体験を身近に感じて育った2世にとってそれは耐えがたいことです。理性的にも感性的にも到底受け入れがたい考え方だと言わざるを得ません。

「抑止力」の一般的定義は、「相手が攻撃してきた場合、軍事的な対応を行って損害を与える姿勢を示すことで攻撃そのものを思いとどまらせる軍事力の役割」、と言うものです。しかし現実問題としての「抑止力」は、「脅し」、或いは「威嚇」であり、場合によっては「挑発」となることさえあります。日常の用語で説明するなら、つまるところ「抑止力」の本質は「なめんなよ！」合戦、即ち、「やるんか、やるんならやってみい、ただじゃおかんぞ！」と言ってマウントをとる行為だと言わなければなりません。

核兵器禁止条約第1回締約国会議の議長も務めたオーストリア大使のアレクサンダー・クレメントさんは、「核抑止論」は「科学ではなく願望」だと言いました。要するに、「抑止力」というのは、現実的には「願望」或いは「お願い」でしかなく、極端な言い方をすれば、「祈り」にも似た、受け身で主体性のない考え方であり、姿勢でもあると言う言事です。

次回は、その理由について具体的な項目をあげて説明したいと思います。

【2面から】という被爆体験を語るきっかけとなる思いや願いをのべ、「軍備拡大でなく、いまこそ平和の運動が必要で、平和な日本をつくるため皆さんに語り継いで欲しい」と訴えました。

堀田さんは、自身の姉の肉声での原爆被害の証言を流し、原子爆弾の「ファットマン」やB29爆撃機「ボックスカー」や原爆投下のキノコ雲、米軍に死の谷と呼ばれた浦上地区、長崎の町や爆心地の様子、当時こどもたちや大人の被爆者の写真を、スライドを使用し紹介しました。

勇気りんりんエッセイ
参議院議員　白川よう子

戦後80年の広島・長崎へ

8月6日、広島で田村智子委員長はじめ国会議員団や、広島県委員会と地方議員の皆さんとともに慰霊碑に献花を行い、原爆の惨禍を二度と繰り返さないと固く誓いました。平和祈念式典、原水爆禁止世界大会に参加し、原爆養護ホーム「神田山やすらぎ園」に入所者を慰問させていただきました。

8・9日、長崎でも国会議員団と長崎県委員会、県議・市議で、日本赤十字社の「長崎原爆病院」と「恵の丘長崎原爆ホーム」をお見舞いと慰問し、松山爆心地公園でも献花を行いました。長崎市平和記念式典に参列。「長崎を世界最後の被爆地にするためにも、世界中から核兵器をなくさなければ」と強く語る現地の皆さんの思いに比べても、石破首相の「核抑止力」に頼る姿のなんと情けないことか。

改めて、被爆80年の年に行われた参院選で議席を得たことの重みを感じています。日米訓練でも米軍が核兵器を使用するシナリオを議論し、核の脅しの「抑止力」の中でしか物事を見ることができない自民党政治の行き詰まりを変える力は、被団協のノーベル平和賞受賞にも現れているように、平和を求める人たちの力の結集だと確信しています。

急逝された故原口前長崎県委員長宅、故今田真人前佐賀県委員長宅を弔問。当選の報告と安らかにお休みくださいとお伝えしました。佐賀では「女性後援会」が集まってくれました。新しい議席を喜び合い、力を合わせて頑張っていく力となりました。

2025年度原爆死没者慰霊平和記念式典

広島への原爆投下から80年の6日、香川県原爆被害者の会は高松市で原爆死没者慰霊平和祈念式典を開きました。被爆者や被爆2世など約40人が参列しました。

森岡智子会長は「原爆は多くの人の命や生活、そして未来を奪った。80年の時を経ても心の傷は癒えない。悲劇が繰り返されぬよう改めて平和を考えたい」とあいさつしました。

昨年度中に県内で15人の被爆者が亡くなり、県内の原爆死没者名簿記載者総数が967人となったことが報告されました。

藤井明事務局長は「被爆者の高齢化が進み、若い世代に語り継ぐ取り組みが大切。今回の慰霊祭には小学2年生の女の子が自ら希望して母親と一緒に参加し『戦争はどんなことがあってもしてはいけないと、友達に分かりやすく教えたい』と話すのを聞いて、会員たちはみな心強いものを感じた。私たちも語り部として次世代の子どもたちに語っていこうと気持ちを新たにした」と述べました。

街頭で宣伝・署名　県原水協が6・9行動

高松市で9日、原水爆禁止香川県協議会が恒例の署名活動と街頭宣伝を行いました。

署名は被爆80年、日本政府に核兵器禁止【4面に】